

- 伊13節 ($F = \text{回}C$) <... おまはお前アラム語 (アラム) と争う
アーハンの剣!!。お前にそれが種属の分は、おまは
分けだ。……>

$$\begin{cases} 剣 = خلق \\ 分か = جعل \\ 分けだ = (جعل) \end{cases}$$

人間は 究極に 分けた剣を 持つ。つまり 球形は contract
& symmetry を持つ。またこの節は Quran 17
は あらゆる variety の組合せも直接書かれている。

-
- 伊17節 ($F = \text{回}C$) <従う。自分が回路途に居る所で
は「何が汝に思はれてか」もかけたまゝにはならぬ。すなはち
が…。〔お前に回路途に居るか」といふ。これが思ふ。

- 第59節($F = \theta(C)$) ≪ カル(精魂)は 祢前テ丁が創り
たり。されども汝にが創りたり。 ≫
創り = (خلق)

非常に重要な節。これは前9節 (= 第58節と - 結び = 2
段落) が「今おぞらひ知めぬ」。 ≪ カル。 祢前テ丁。 され
ば汝は汝の。 祢前テ丁が造り可候事也 (精魂)。 カ
ルは 祢前テ丁の「創り」なり。 されども汝にが「創り」なり。 ≫
この模型は非常に大切である。 疑問宣乞の註とは云々
である。 このあたりの註 (實際は第57節の
註) = "Yusuf Ali は 1298J: 云々"。 Man is apt to
forget his creator, and even the fact that he, man,
is a created being. The seed of his body, out of
which his physical life starts, is not created by man,
but by God in the process of the unfoldment of the world.
Why will not man recognize and bear witness to
this fact by a life of obedience to God's Law? (=
註 = 15 講解 か... 云々) The seed of his body, out of

せがましくてその間をあけていた。 思とかけたのは「アッラー
の方だ。 お前は「とき者と信仰とは「下」下」下」下
から。 これが本筋、とは云ふべきではないか。 ⇒

非常に大切な節。 まず = 9 節 简訳の。 ほとんどの説教と
もこの箇所を指してきてる。 お前は「とき者と信仰
とは「下」下」下」下」の お前は「とき者」
である。 原文には 二つ = 「とき」時 = ユスフは 當時 = ある。
また、且つあった お前は「Quran の價值は大いに満
り」。 并簡訳は原文には「二つ = 「とき」時」當時
に入れたが、それは 二つ = 「とき」時 = 當時 = 當時
ではと思つたからでない。 「とき」 = ユスフは「當時」當時
では「當時」當時 = 當時 = 當時 = ある。 原文は
原文通りに説いて「理解 = ある」、つまり 并簡訳は
Quran が理解できることであります。 一般人は今まで
まで「かぎりんでいい」と。 この節は原文通りに「當時
に説いてはいるが、即ち、「當時」當時は自分が因縁
などに、そこには「當時」當時 = 當時 = 當時 = ある。
すなはち、「お前」お前は「當時」當時 = 當時 = ある。
「お前」お前は「當時」當時 = 當時 = ある。

「人間の本性は、神の性である」。これが本性のところは「人間」。
 「人間は、アラム語で「神の性」といふ」。人間が
 イスラームを奉ずる者は、何か人間の個性からその本
 性はなまえども、奉ずる奉じたは人
 間の自由な選択にまかされていて、主権的に行
 事して奉る者と選ばれた者は全くな
 い、「などには、アラム語で「主権的に行きか
 げて、人間はイスラームを奉る者と奉らずの者」と
ある。 ((これがストンと理解すべきところではない
 から、車両はイスラム信者に終る。真正の人間には主権
 的な命運を授かる。))

- 方には人間があり、それは常に神から離れてゐる。イスラーム
 では、この独立は神の門としてトリニティに似た形で
 ある。なぜかと言ふと、信仰とは常に離れてゐる。實際の
 ところは、イスラームから離れた人間はヒューマニズムの
 である。人間の本性を切り方がある。イスラームではある。
 本性の切り方があるはずの人間はヒューマニズムは厚く
 してゐる。本性の切り方があるは必ずして人間は即
 然神の門に人間であるが如くである。アラムの不育
 定がある。この神の門は人間の la force de

chair original が直角である。 chair original は人間の主導的行動ではない。肯定へと向うも一生を過み去る人間は本末つぶれである。

《第50章》

○ 第6節 ($F = \text{同じ}$) << 併結し、頭上の蒼穹を拂り、

あわせたててさかとれほとん(食事)をかとうと建てるが、

それはと美しく飾りたり。眺めたまつらの月、

つむじの匂はが >>

と建て = سب.

= 9 節も肯定(創造)が主張されてる。

○ 第7節 ($F = \text{同じ}$) << また大地は、アラビア山脈と

江河にて、そぞろとゆるぎて山と谷とあり、

あらゆる種類の草木を萌えさせて、>>

{ 35u317 = ٣٥

根 = أَرْجُون

萌えさせて = انبت

創造の肯定。

○ 第9節 ($F = \text{同じ}$) << ... 云々 (火、雨) などは

圓錐形、物質 = 物の実で >>

火 = أَنْبِت